



## 第 41 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

大内 孝子 氏

テレコム人文学・社会科学学生賞 入賞  
「IEEE 802.3 規格の形成過程」



この度は、拙稿を「第 41 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学学生賞入賞」にご選定いただき、誠にありがとうございます。

審査員の先生方、電気通信普及財団の皆様に深くお礼を申し上げますとともに、本論文の執筆において多大なるご指導をいただきました東京科学大学の河西棟馬先生に深く感謝を申し上げます。

本論文では、IEEE 802.3/Ethernet が後のインターネット技術標準の系譜を形作ったのではないかとこの点に着目し、当時の関係者のオーラルヒストリーを中心に IEEE 802.3 規格の設立過程を検証しました。

コンピュータの利用が広がり、各社の独自仕様のネットワークが乱立していた 1980 年、IEEE にローカルエリア (LAN) の標準を策定するために 802 委員会が設立されました。発足当時の 802 委員会は OSI 準拠の独自仕様の開発を目指しましたが、議論が激化する中、初期の方針を翻し組織を改編し、Ethernet を含む 3 つの規格を並列的に策定しました。

その後 90 年代に入ると、IEEE 802.3/Ethernet と TCP/IP の普及によってインターネット時代が幕を開けます。本論文では、このとき「実装ありき」で成長し続けるモデル、そして下部組織を機動的に改編できる仕組みが、急速に革新を続けるネットワーク技術への適応を可能にしたと結論付けています。

インターネットがインフラとして成熟した今こそ、その基盤技術であるネットワークプロトコルの開発・発展においてどのような事象が起き、それが技術史においていかなる意味を持つのかを問い直す意義があると考えております。

今回の受賞を励みに、今後もネットワークプロトコル技術が果たす社会的役割や意義をテーマに、研究に邁進して参る所存です。

末筆ではございますが、貴財団の益々のご発展とご繁栄をお祈り申し上げます。

## 第 41 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

<順不同>

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

光吉 佑莉加 氏

(合同会社デロイト トーマツ)

テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞

「ICT 産業における国際分業と付加価値の分配—国際産業連関表を用いた多  
国の相互依存関係に関する実証分析—」

この度は、「第 41 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞」を賜り、大変光栄に存じます。電気通信普及財団の皆様並びに審査員の先生方に、厚く御礼申し上げます。

また、本論文の執筆にあたり、貴重なご意見をいただいた皆様にも深く感謝申し上げます。

本研究では、2010 年及び 2020 年を対象に、主要 9 カ国・地域における最終需要(消費・投資)が、国内外の ICT 産業(コンテンツやプログラミングを含む)の生産・付加価値を連鎖的に押し上げている実態を分析しました。その結果、各国の生産・付加価値額の拡大には、ICT 以外の産業における最終需要による誘発効果が大きく寄与していることが明らかになりました。具体的には、スマートフォンの販売が半導体チップの生産が押し上げる効果以上に、電化製品や自動車などの ICT が組み込まれた財・サービスの販売拡大が、ICT 産業の拡大に貢献しているという結果となりました。

また、日本では諸外国に比べてこのような他産業からの誘発効果が限定的であることも示されました。近年は半導体工場の誘致といった供給面の施策に注目が集まっていますが、非 ICT 産業において ICT の中間投入を拡大し、その産業の競争力向上を図るという需要面からの施策も重要であると考えられます。今回の受賞を励みに、今後も研究のさらなる深化に努めてまいります。

最後になりますが、貴財団のますますのご発展とご繁栄を心より祈念いたします。

## 第 41 回電気通信普及財団賞 表彰者コメント ～テレコム人文学・社会科学学生賞～

< 順不同 >

※括弧内の所属は当論文賞受賞時のものです。

### 松浦 正典 氏

(政策研究大学院大学政策研究科政策分析プログラム博士課程 2 年  
独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所開発研究センター研究員)

### テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞

「Mobile phones, off-farm income and employment of rural women: Evidence from Bangladesh」



この度は、「第 41 回電気通信普及財団賞テレコム人文学・社会科学学生賞 奨励賞」にご選定いただき、身に余る光栄です。審査員の皆様、財団の皆様、ご指導いただいた先生方、ならびに共同研究者の Abu Hayat Md. Saiful Islam 氏(バングラデシュ農業大学)、Salauddin Tauseef 氏(当時国際食料政策研究所、現マンチェスター大学)、Shu Tian 氏(アジア開発銀行)に深く感謝申し上げます。

本研究ではバングラデシュの農村部を対象に、携帯電話の普及が途上国女性の農外労働市場への参加を促進することを、実証的に明らかにしました。ICT 技術が地理的な制約を越えて、女性の経済的機会を拡大させる一助となることを示した点に、本研究の意義があります。私はこれまで、農業・開発経済学の視点から気候変動や貧困、ジェンダー不平等といった課題に取り組んでまいりました。

本受賞を励みに、今後も ICT の普及が途上国の経済社会発展に果たす役割を深く探究し、エビデンスに基づく政策形成に貢献できるよう、研究活動に精進してまいります。